

いわき明星大学図書館報

Bulletin of

The Iwaki Meisei University Library

大震災後のいわき明星大学図書館

図書館長 井上知泰

幸いなことに、いわき明星大学図書館の受けた東日本大震災による被害はそれほど大きなものではありませんでした。本学が固い岩盤の上に建っていること、建物の強度が充分であったことなどによるものと思われます。今回の大震災は発生日が大学の年度末で、通常の授業期間中に比べて構内に居た学生が少な目であったことが幸いでした。今後発生が予想される通常の授業期間中の災害に備えて、地震・災害防災マニュアルの整備、避難訓練の実施等の対策を進めて参ります。

3月11日の大地震時には想像を絶する揺れがありましたが、館員の指示により館内に居た学生、教職員は全員無事に避難できました。書棚、机、椅子その他の什器を含めて、館内設備への被害は殆んどありませんでした。それでも全24万冊の書物の内、書棚の上段部の図書、全体の1割程度は床に落下し、それらを元に戻す莫大な作業が終了しない内に再び4月11日の大きな余震でも多少の書物が落下しました。関係者の努力により、4月25日から図書館を再開、5月10日には学習センターも再開でき、通常通りに学生・教職員の利用が可能となりました。

現在は大震災後の復旧を完了し、種々の改善による更なる発展を図っています。学生に提供するサービス内容を拡充し、授業内外の学習に必要な資料を整えること等により自習環境の整備を進めています。また、情報の電子検索や電子ブック等の利便性も高めます。

本学図書館は従来より一般の方々にもオープンにしており、入館者数が年々増加してまいりましたが、これについても従来通りに書籍の館内利用、館外貸出を再開しました。更にこの大震災により校舎が大きな損傷を受けた県立湯本高等学校の生徒全員の前期授業を本学で行うことになり、高校生の皆様にも図書館と学習センターの施設を自由に利用して頂き、落ち着いた環境での勉学の場として利用して頂ける様に致しました。また、福島第一原子力発電所の事故によりいわき市へ避難・滞在されている皆様にも、自由な入館、書物の貸出等のサービスをご利用頂ける体制を整えました。本学図書館は学生・教職員だけでなく、地域の皆様にも開放して地元へ愛される存在を目指しておりますが、今回の震災経験を活かして、今後も地元への貢献を尚一層高める様に努力して参ります。

目 次

- 大震災後のいわき明星大学図書館 図書館長 井上知泰 …… 1
- 年配の一自然科学研究者にとっての図書館
いわき明星大学 副学長 薬学部教授 田中晴雄 …… 2
- 東日本大震災におけるいわき明星大学図書館の被害状況
および復旧の対応について 図書館 片見智子 …… 3
- 図書館トピックス …… 4
- 図書館利用状況 …… 4



年配の一自然科学研究者にとっての図書館

いわき明星大学 副学長 薬学部教授 田中晴雄

3月11日と4月11日の大地震で小生の研究室の本は本棚から2回に亘って1冊残らず床に散らばりました。整理に大分時間が懸ったことを思い出します。研究室でさえこのような有様でしたから、24万冊を超える蔵書を有する図書館は、さぞ大変なことだったろうと推察致します。

余震が続いていた5月11日、図書館からメールで「図書取り寄せ無料」との知らせがありました。微生物由来の抗HIV薬アクチノヒビンの研究を進めている中で、図書館を利用する機会は多くあります。といっても、コンピュータの画面上での利用がほとんどですが、本学の図書館にない雑誌もありますので、そのような時には図書取り寄せシステムを利用してコピーを取り寄せて頂くこととなります。それを無料でできることは大変有り難い限りです。これまでは、図書館に必要書類を提出し、コピーが届いた後には費用の清算のための書類を作る必要がありましたが、これからはこれらの作業が無用になるのです。総説作成を手掛けようとしているので、これから大いに利用させて頂こうと思っています。

本学の図書館は開学の時以来蔵書数の多さを誇ってきました(大学ランキング図書館の部で、2009年版35位、2010年版66位、2011年版49位)。マーク・トウェインの約3,000点のコレクションをはじめとして、24万冊を超える蔵書を持ち、いわき市民および近隣にお住まいの方々にも公開され、重要な地域貢献を果たしています。また、薬学部開設と同時に薬学関係、天然物関係の雑誌も揃えて頂きました。特に、SciFinder Scholarを導入して頂き、新しい化合物の発見や合成に携わる研究者にとっては大変便利になりました。小生がThe Journal of AntibioticsのManaging Editorを担当していた時には、投稿された論文に記載された化合物のうち、どれが新規でどれが既知であるかをSciFinder Scholarを用いて短時間で判別できるようになりました(実際に担当して頂いたのは、天然物の権威である金容必准教授でした。お忙しい中時間を割いて頂いたことに感謝)。時には、審査員に論文審査を依頼する前に、

“Managing Editor”として“Reject”の判定を下すことができた場合もありました。お陰で審査が速く正確になり、雑誌のStatusを挙げることができたと自負しています。SciFinder Scholarの導入のお陰と深く感謝しています。現在、The Journal of AntibioticsはNature Publishing Groupと日本抗生物質学術協議会との共同出版となっていて、最近、高橋淳研究助手がFirst Authorで本誌にOnline publishされた論文はBioMedLib (<http://www.mdlinx.com/internal-medicine/news-article.cfm/3654579>)のsiteに取り上げられて、世界の医療関係研究者に配信されました。今後世界の多くの研究者に読まれ、多くの論文に引用されることを期待したいと思います。

小生の若い頃には(気持は今でも若いつもりですが、このような言い方をしても恥ずかしくない年になりました)、研究計画立案や論文作成、あるいはセミナーの準備のために図書館(当時は、北里大学白金図書館)の地下の書庫の横にある机を3人分程占領して、床から天井までの書架から踏み台を使って次々と製本された重い冊子を取り出して調べ、必要なものはコピーを取り、長時間に亘って読みふけたものです。集中力と体力のいる重労働でした。今では自分の研究室でコンピュータに向かって図書館を利用するという大変な様変わりです。図書館も、今後電子化時代を迎え、大変革の時代がすぐそこまで来ているものと考えられます。図書館のシステムと機能は大いに変わり、本学も対応に迫られるものと思われれます。

さて、図書館は蔵書数だけで競うものではなく、その存在価値は、学生、教員、そしていわき市民の方々にどれだけ有効に利用されているかによって決まるものと考えます。本図書館の館報のVol.7には、学生諸君が「勉強し易い環境が整っている。」とか「レポート作成やテスト前の勉強には、シラバスコーナーがお勧めです。」という記事もあり、大変うれしい限りです。本図書館が、さらに多くの学生諸君の調査研究と勉強に、そしていわき市民のオアシスとして活用されることを祈ります。

東日本大震災におけるいわき明星大学図書館の被害状況および復旧の対応について

2011年3月11日午後2時46分に発生した「東日本大震災」は、国内観測史上最大規模な地震となり、地震に伴って発生した津波は、東北地方の太平洋沿岸部をはじめとする各地を襲ったようにいわき市の被害も惨憺たるものでした。

更に、いわき市は原子力発電所における未曾有の大被害をもたらしました。

この地震及び4月11日・12日の余震における本学図書館の主な被害状況は次の通りです。

■被害状況

1. 人的被害

- (1) 利用者、職員ともに被害なし。

2. 図書資料被害

- (1) 蔵書の約1割弱 22,606冊が書架から落下。

開架図書：2階部分	194冊
: 3階部分	13,889冊
書庫内図書：2階部分	2,104冊
: 3階部分	5,563冊
: 地下書庫	433冊
その他（作業室等）:	423冊

- (2) 落下状況

修理本 1,598冊

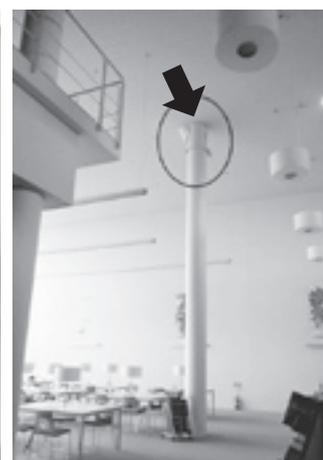
貴重書はすべて落下等の被害なし

- (3) 被災資料

- ①原発事故（自宅が警戒区域の為取りに行けない）：4人 13冊
 ②津波被害：3人 7冊
 ③汚損：5人 9冊



図書館3階 書庫



学習センター ボード一部破損



図書館3階 薬学コーナー

■復旧作業

4/1～4/7：開架本再配架（14,083冊）

4/8～4/16：書庫内本及びその他（作業室等）再配架（8,523冊）

4/12 : 4/11の余震の為再配架の一部やり直し

4/5～5/23：本の修理1,543冊

4/25 : 図書館のみ開館（建物安全確認済）

4/27～4/28：本の一部移動

理由▶上段からの本の落下が多かった為2段目から本を再配架とした。

5/10：学習センター（建物安全確認済）、図書館通常開館
 時間で再開

開館時間▶（月）～（金）8：45～
 21：00・（土）8：45～17：00



図書館3階 開架

■利用者サービス

1. 学外利用者

- (1) 原子力発電所の事故により避難区域に指定されている檜葉町役場の仮庁舎として、本学施設の「大会館」を「檜葉町災害対策本部いわき出張所」として使用していただいている事に伴い、いわき

市民への貸出という範囲を「一般開放」と拡大し被災者の方々へ利用サービスを開始した。

- (2) 地震の影響で校舎が使用不能になった福島県立湯本高等学校が、本学を仮校舎として使用する事に伴い同校の教員、生徒への利用サービスを開始した。

2. 学内利用者

- (1) 被災学生へ辞書の提供
(2) 被災資料の購入（複本）



利用者の皆様には、長期間にわたり、ご不便、ご迷惑をおかけいたしました。ご理解・ご協力を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。

■その他

- (1) 地震発生時の避難について再確認
(2) 余震に備えたスタッフの体制、現場の見直し、避難の見直し
(3) 東日本大震災に伴う資料の展示

(いわき明星大学 図書館 片見 智子)

図書館トピックス

「シラバスコーナー」新年度資料へ更新中

図書館2階のシラバスコーナーの資料を、23年度シラバスにあわせて更新作業を行っています。授業中に指示をしているものも購入対象としてシラバスコーナーに配架されております。

学習センター賑わっています

学習センター1Fで七夕飾りを行いました。学習センターには、2本の大きな笹を飾り付けており、本学の学生や湯本高校生が、短冊に願い事を書いて飾りつけています。



「エコ」に取り組んでいます

- 学習センター3階南側窓に赤外線カットフィルムを貼りました。
- 図書館1階の照明を蛍光灯からLEDへ交換しました。
- 図書館1階ロッカー室の照明に人感センサーを付けました。

平成22年度図書館利用状況

利用者	：本学学生（学部生・大学院生・研究生・科目等履修生・聴講生） 教職員 その他（本学教職員・同窓生・明星大学通信教育生・いわき市民・高大連携該当高校）	
入館者数	：131,353人、1日平均 477人（年間開館 日数：275日）	
貸出冊数	：17,658冊 内訳（学生 14,625冊・教職員 1,962冊・その他 1,071冊）	
レファレンス	：学内 390件	内訳（文献調査 98件・事項調査 7件・利用指導 285件）
レファレンス	：学外 文献複写	内訳（依頼 1,186件・受付 302件）
	相互貸借	内訳（依頼 39冊・受付 100冊）
市民利用登録数	：258人 内訳（男 137人・女 121人）	